

第3巻 第2号 (通巻第6号) 2014年11月発行 ISSN 2187-0292

# 埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 3, Number 2

2014

特集

第43回 埼玉透析医学会 学術集会  
プログラム・抄録集

第5回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2014



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

# 埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 3, Number 2

2014

特集

第43回 埼玉透析医学会 学術集会  
プログラム・抄録集

第5回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2014

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

# INDEX

---

巻 頭 言 .....	185
-------------	-----

## 第43回埼玉透析医学会学術集会 プログラム・抄録集

会場案内図・会場見取図 .....	189
参加者へのご案内とお願い .....	190
記録集原稿執筆要項について .....	191
タイムテーブル .....	193
プログラム .....	194
抄 録	
特別講演 .....	199
ランチョンセミナー .....	201
アフタヌーンセミナー .....	203
モーニングワークショップ .....	205
一般演題 .....	215
協力企業一覧 .....	230

## 第5回埼玉アクセス研究会 学術集会 PROCEEDINGS-2014

proceedings 目次 .....	233
VAトラブルを予防する取り組み ～各施設の工夫から学ぼう～ .....	235
バスキュラーアクセス(VA)を再考する ～作製者と使用者の立場から～ .....	247
一般演題 .....	266

学術集会開催記録 .....	309
2014年施設名簿 .....	310
埼玉透析医学会会則 .....	312
索 引 .....	314

次回開催のご案内

## 第6回 埼玉アクセス研究会学術集会

会 期：2015年7月26日(日)

会 場：大宮ソニックシティホール棟4階 国際会議室  
〒331-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5  
TEL 048-647-4111

会 長：下山 博身(友愛クリニック)

副 会 長：中川 芳彦(南町クリニック)

演題申し込み方法：オンラインによる演題受付とします。詳細は  
後日アップされる大会HPをご覧ください。

募集期間：2015年3月1日～5月20日

共 催：埼玉透析医学会

事 務 局：埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部内  
小川 智也  
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981  
TEL：049-228-3523 FAX：049-226-6822  
e-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp

## 埼玉透析医学会会誌 巻 頭 言



埼玉透析医学会会長  
鈴木 洋通

### ——埼玉透析医学会の過去、現在、そして未来——

埼玉透析医学会は埼玉腎不全研究会を母体として約20年前に誕生した。今回、43回目を迎えるがこれは以前からの開催を含めてであり、したがって名称は別として古い伝統を有する会であるといつて過言ではない。現在ではこのような伝統を知る人も段々と少なくなっているが、ここ埼玉では透析医療が始まったころから多くの先人の方々がしっかりとこの医療に取り組んでこられたからこそ現在があるということを若い人々に是非胸に刻んでおいていただきたい。

さて、現在、本邦での医療分野からみる規模として透析は最大の分野であるとされている。日本透析医学会の参加者は日本最大であり、透析医療関連の医療費は2兆円に達するのではないかと試算されている。ちなみに現在、本邦の医療費は40兆円であり、透析を受けている人は約30万人とされている。このような状況は他の分野からみると羨ましくもあり、また問題ともされている。それは医療に費やされる費用は自ずから限界があり、今後人口の高齢化とともに少子化からくる働く世代の人口減少から考え当然ではあるが、透析の分野でもそれなりの自主規制といったものが求められてくるのではないかと想定している。このような時代にどう透析は対処していくのかは今真剣に考えるときがきているといつてよい。その一つの解決策がIP(inteprofessional)と現在盛んにいわれている医療従事者が一体となって患者中心の医療をおこなうことではないかと考えている。本邦での医療はどちらからという医師が極端に大きな役割を占めていた。もちろんそれなりの責任を負わせられ、なんでもかんでも医師がという医療形態であった。しかし、透析医療をみみると臨床工学技士、看護師が中心となった運営されてきた、ある意味時代を先取りした医療をおこなってきた。しかしそれに満足してきたことも逆に世の中の進歩に遅れをとってしまうことになったことは皮肉といわざるを得ない。実は現在の医療には様々な医療職が加わっている。薬剤師、歯科医師、臨床検査技師、診療放射線技師などは当然よく知られていたが、歯科技工士、歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士、鍼灸師、整復士など国家資格を有しているものから、ソーシャルワーカー、介護関連の職種、栄養関連の職種など枚挙にいとまがないくらいである。これらの職種が一体となった医療がいま透析医療でも求められており、まさに今回主要なテーマとした腎臓リハビリテーションはその一つの突破口になることを期待し、それが未来へとつながることを信じ、3年間、埼玉透析医学会の会長と大会長を務めさせていただいた感謝と御礼の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

43<sup>rd</sup> Annual Meeting of  
Saitama Society for  
Dialysis Therapy

Abstract  
2014

第43回埼玉透析医学会学術集会

---

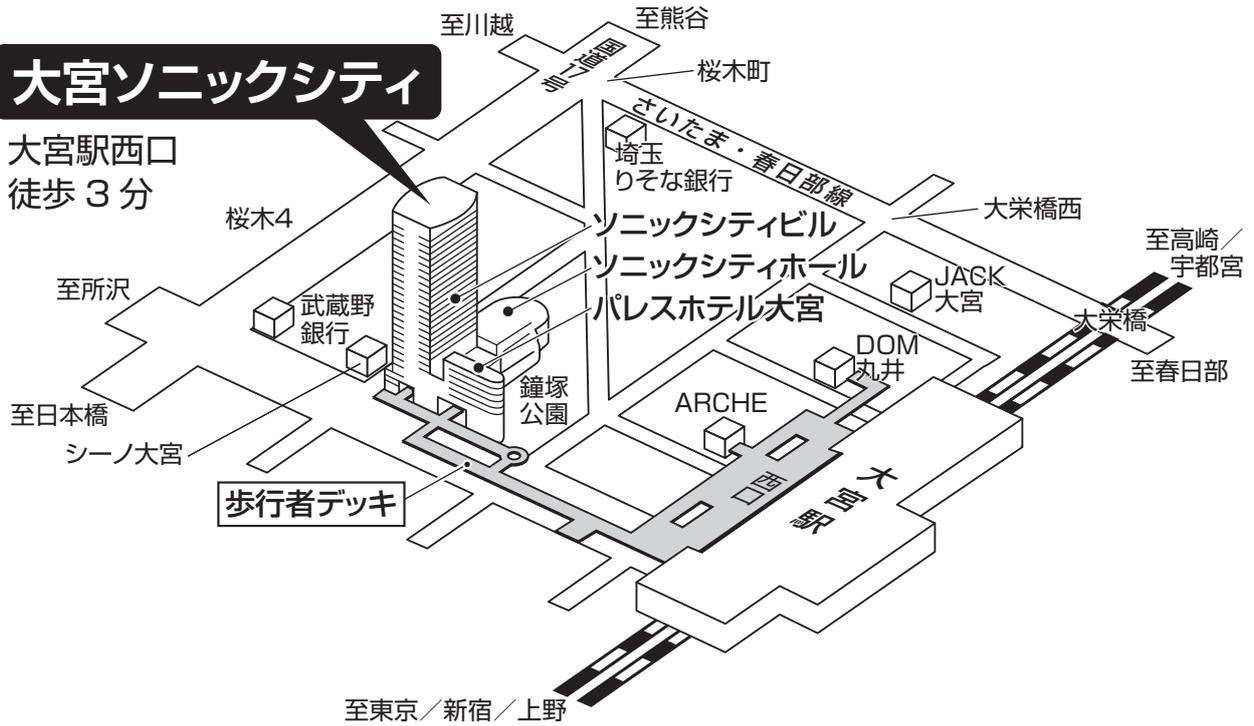
- 会 長：鈴木 洋通 (埼玉医科大学 腎臓内科)
- 日 時：平成26年11月30日(日) 8:50～
- 会 場：大宮ソニックシティ 国際会議室 (ホール棟4階)

事務局：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1  
埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部  
TEL / FAX：042-984-0064  
URL：http://www.ssdt.jp  
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

## 会場案内図

### 大宮ソニックシティ

大宮駅西口  
徒歩3分



歩行者デッキ

お問い合わせ

財団法人埼玉県産業文化センター（大宮ソニックシティ）

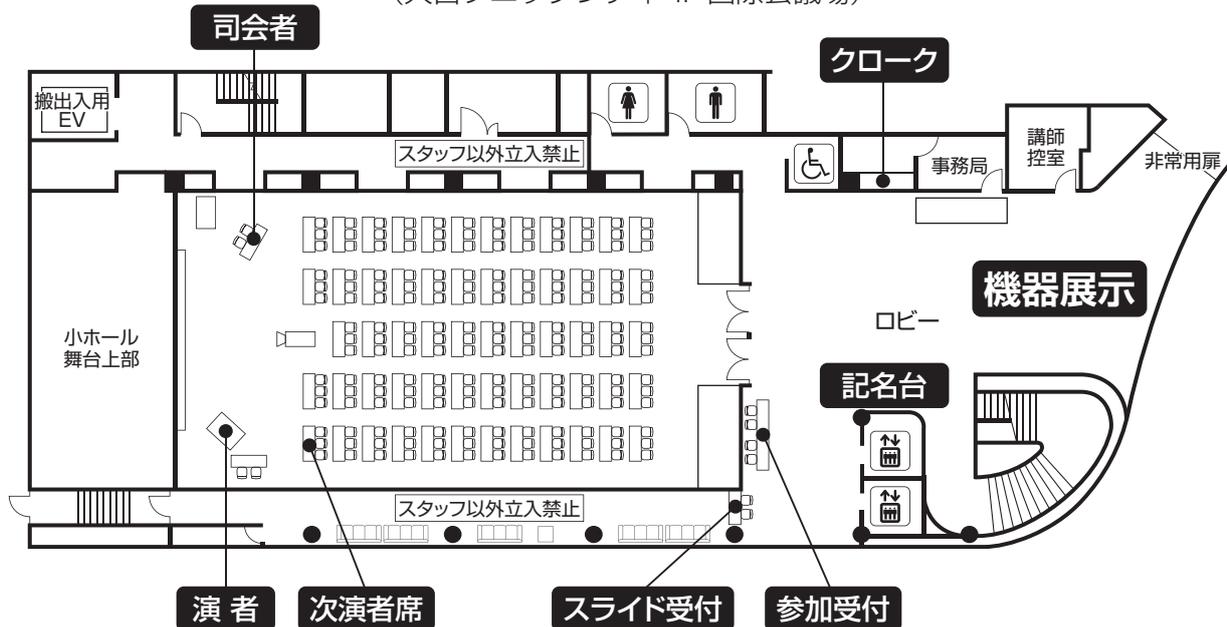
〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5

ソニックシティビル5階 私書籍75号

TEL: 048-647-4111 TEL: 048-647-4159

## 会場見取図

(大宮ソニックシティ 4F 国際会議場)



2014年 11月 30日(日) 大宮ソニックシティホール棟 4階 国際会議室

第1会場 国際会議室		展示 国際会議室前ロビー	打合せ会場 会議室501
8:00		8:00～	
8:30	8:30～ <b>開場</b>	設営	
8:50	8:50～9:00 <b>開会挨拶</b>		
9:00	9:00～11:10 <b>モーニングワークショップ</b> <b>包括的腎臓リハビリテーションに対する取り組み</b> <b>～埼玉県から発信しよう～</b> 司会：松田 昭彦(埼玉医科大学総合医療センター) 塚本 功(埼玉医科大学国際医療センター) 演者：橋本 亜希(医療法人 くぼしまクリニック)、 根生 一治(医療法人社団富家会 富家病院)、 濱崎 満代(JCHO 埼玉メディカルセンター)、 石井 初枝(医療法人財団健和会 みさと健和クリニック)、 菅野 修平(医療法人社団宏仁会小川病院 宏仁会高坂醫院)、 後藤 佐和子(自治医科大学附属さいたま医療センター)、 大谷木 雄太(越生メディカルクリニック)、 加藤 真吾(医療法人財団健和会 みさと健和クリニック)、 石渡 剛(さくら記念病院)	9:00 16:00	
10:00		企 業 展 示	
11:00	11:10～11:50 <b>一般演題1</b> 座長：渡辺 裕輔(埼玉医科大学国際医療センター) 関 正巳(誠弘会池袋病院)		11:00～12:00 <b>埼玉透析 医学会 幹事会</b>
12:00	休憩		
13:00	12:00～13:30 <b>ランチョンセミナー</b> (共催：協和発酵キリン株式会社、埼玉透析医学会) <b>透析医療における実践的運動療法</b> <b>～患者さんも医療スタッフも一緒に運動習慣を身につけよう！～</b> 司会：鈴木 洋通(埼玉医科大学) 講師：安藤 康宏(国際医療福祉大学病院) 佐々木 廉雄(医療法人小山すずきの木クリニック)		
14:00	13:40～14:10 <b>総会</b> 議事進行：鈴木 洋通(会長)、高根 裕史(事務局)		
	14:10～14:50 <b>一般演題2</b> 座長：桑原 道雄(医療法人秀和会 秀和綜合病院) 山下 芳久(埼玉医科大学)		
15:00	15:00～16:00 <b>アフタヌーンセミナー</b> (共催：中外製薬株式会社、扶桑薬品工業株式会社、埼玉透析医学会) <b>しっかり透析とオンラインHDF</b> 司会：鈴木 洋通(埼玉医科大学) 講師：鈴木 一裕(援腎会すずきクリニック)		
16:00	16:00～16:50 <b>一般演題3</b> 座長：竹田 徹朗(獨協医科大学越谷病院) 安藤 勝信(自治医科大学附属さいたま医療センター)	16:00 ～17:00 撤収	
17:00	16:50～17:20 <b>特別講演</b> <b>治す活力を引き出す補完代替医療の勧め</b> 司会：栗原 怜(医療法人慶寿会) 講師：鈴木 洋通(埼玉医科大学)		
	17:20～17:30 <b>BPA表彰・閉会式</b>		

## 第43回埼玉透析医学会学術集会 プログラム

平成26年11月30日回

8時30分 開場 8時50分 開会

---

**開会式** 8:50～9:00

---

会長：鈴木 洋通（埼玉医科大学）

---

**モーニングワークショップ** 9:00～11:10

---

包括的腎臓リハビリテーションに対する取り組み ～埼玉県から発信しよう～

座長：松田 昭彦（埼玉医科大学総合医療センター）  
塚本 功（埼玉医科大学国際医療センター）

- MW-1 透析導入後の生活不安による、うつ病に対して入院透析および看護支援を行い安定した  
外来維持透析へ移行した1症例  
医療法人 くぼじまクリニック 橋本 亜希 他
- MW-2 「居場所探し」を続けた80代女性～臨床心理士との面接を振り返って～  
医療法人社団富家会 富家病院 根生 一治 他
- MW-3 大腿静脈直接穿刺による緊急時ブラッドアクセスの腎臓リハビリテーションにおける  
有用性 ～1症例の経過を通じての考察～  
JCHO 埼玉メディカルセンター 濱崎 満代 他
- MW-4 透析前体操を開始して ～運動への意識付けと実践～  
医療法人財団健和会 みさと健和クリニック 石井 初枝
- MW-5 宏仁会高坂醫院の透析中の運動療法  
医療法人社団宏仁会小川病院 宏仁会高坂醫院 菅野 修平 他
- MW-6 血液透析施行中の運動による循環動態および循環血液量変化の観察  
自治医科大学附属さいたま医療センター 後藤 佐和子 他
- MW-7 当院における透析中の運動療法 ～臨床工学技士の視点から～  
越生メディカルクリニック 大谷木 雄太 他

# 特別講演

## 特別講演

# 治す活力を引き出す補完代替医療の勧め

鈴木 洋通(スズキ ヒロミチ)

埼玉医科大学 腎臓内科

現在透析医療を取り巻く環境は医療分野全体にイえることではあるが、決して安泰といえるものではないことを多くの人々が認識している。そのような中であって、小生は補完代替医療がそれらを解決するひとつの手段となりえるのではないかと考えいままでも取り組んできた。もちろん全体として補完代替医療を取り巻く環境は決して良いとは言えないが、逆にいえば、これからの力のかけ方では大いに発展する余地を残している分野といってもよい。本邦の人口構成の変化は劇的であり、これからはいわゆる高齢者医療が主体となることは火をみるより明らかである。従ってなるべく侵襲の少ない、かつ環境にも優しい医療が求められており、それがまさに補完代替医療と呼ばれている、鍼灸、自然の生薬、指圧、気功、運動、アロマなどではないかと考えている。これらのどれをとりあげても2つの条件(侵襲の少ない、かつ環境にも優しい)をしっかりとクリアーしている。現代医療ではいわゆる Evidence Based Medicine が主流となっており、確かにそれらに基づく医療は重要であり、かつなるべく科学的にという考えは十分に尊重し、かつ用いていくことは当然である。しかし人体はそれに留まらない不可知の占める割合が多いことも事実である。それらに如何に対応するのか? 現在本邦では健康保険により医療が決定されとおり、それ以外のことは基本的には医療保険の対象にはならない。この健康保険制度とどう折り合いを補完代替医療がうまく付けられるのかが重要なポイントとなる。一方翻って医療の基本は何かというと何らかの体に変調をきたしていることがあったとしても、それをより自然に通常に近づけることで、日々の生活を上手に送ることが出来る様にするということではないだろうか。とくにその様な気運が西欧諸国や本邦で起こってきた背景には、人口の高齢化と生活習慣の急激な変化をもたらしている一つの社会現象として捉えてもよいかもしれない。その時にまさに必要とされているのが補完代替医療ではないかと考えている。今回治す活力を引き出す補完代替医療とはどのようなものかを皆様と一緒に考えてみたい。

# ランチョンセミナー

透析医療における実践的運動療法  
～患者さんも医療スタッフも一緒に  
運動習慣を身につけよう！～

## ランチョンセミナー

### 透析医療における実践的運動療法

～患者さんも医療スタッフも一緒に運動習慣を身につけよう！～

○安藤 康宏(アンドウ ヤスヒロ)<sup>1)</sup>、佐々木 廉雄<sup>2)</sup>

1)国際医療福祉大学病院 予防医学/腎臓内科、2)小山すぎの木クリニック

透析患者の運動療法は、30年以上前から有用性が報告されており、決して新しい治療手段ではない。しかし透析患者の低体力と栄養不良・sarcopeniaが表裏一体となって、予後不良に深くかかわっていることが明らかとなり、最近改めて運動療法の重要性が認識されつつある。

加えてここ数年の間に、積極的な身体活動によって体力を向上させたり、低下した身体・内蔵機能を改善させるという古典的な運動療法のコンセプトとは別に、運動不足(座りずくめのライフスタイル、身体的不活発)自体が強い健康障害因子としてクローズアップされたことで、新しい考え方が生まれてきている。すなわち筋力や心肺機能増強を目的としたエクササイズ、あるいはインストラクターやモニター監視下での本格的なリハビリテーションだけではなく、散歩や買い物、炊事・洗濯など日常生活のなかで活動量を増やして身体的不活発を是正することも運動療法の一環という認識である。

透析患者でも上記のような軽度の身体活動による身体機能や生命予後の改善が最近の複数の研究で示されており、透析患者への運動療法は従来に比べて、かなり敷居が下がり、間口が広がったといえるだろう。

しかしながら我が国では運動療法への取り組みが定着している透析施設はまだまだ少ないのが現状であり、「運動療法といっても何をどうやっていいのかわからない」、「そのための専属スタッフがない」、「下手に運動させるとアクシデントが心配」、「始めてはみたけれど続かない」、といった悩みを抱えている透析施設が少なからずあるだろうと推察される。本セミナーでは、運動やリハビリテーションの専門スタッフ不在の施設で、どのように運動療法に取り組めば良いか、どうしたら長く続けられるかについて、最近の知見と私たちの経験を交えて実践的な参考情報を提供できればと考えている。

# アフタヌーンセミナー

しっかり透析とオンライン HDF

## アフタヌーンセミナー

### しっかり透析とオンライン HDF

○鈴木 一裕(スズキ カズヒロ)

援腎会すすきクリニック 院長

透析患者が“よく食べよく動く”為に最も大切なことは、十分な透析量を確保する事である。しかし、日本の透析の現状は、透析回数はほとんどが週3回であり、4時間透析の患者が多く、血流も200 ml/min程度となっている。この程度の透析量では、透析不足となる患者が多く、慢性的な透析不足は透析合併症を引き起こしてしまう。

それにも関わらず、多くの患者は透析時間の短縮を要求してくる。透析が早く終了しても、短時間で無理な除水をすれば、透析後のだるさが改善せずに1日中寝ていることとなる。

我々は、透析時間延長(平均透析時間4.9時間)、高血流量(平均血流量328 mL/min)、オンライン HDF を“しっかり透析”として透析患者の生命予後改善を目指している。しっかり透析を行うことで、高血圧が是正され、心機能が改善し、リンのコントロールが容易になる。リンがコントロールされれば、食事量を増やす事が出来て栄養状態は改善し、筋肉量も維持される。

患者には、減塩の上で食事量を増やしてもらい、積極的に運動を行ってもらう。この様に、腎臓リハビリテーションを行う為には、十分な透析量を確保するというのが大前提となってくる。

今回の講演では、これらの事をふまえ、透析患者におけるリンの出納、高血流オンライン HDF の臨床効果についても報告したいと考えている。

# モーニングワークショップ

包括的腎臓リハビリテーションに対する取り組み  
～埼玉県から発信しよう～

モーニング

MW-1

## 透析導入後の生活不安による、うつ病に対して 入院透析および看護支援を行い安定した 外来維持透析へ移行した1症例

○橋本 亜希(ハシモト アキ)、小林 由香、川田 美智子、田辺 弘江、鳥羽 弘美、  
福島 悦子、塚田 真由美、大島 譲二  
医療法人 くぼじまクリニック

【はじめに】当院はベッド数15床・4つのサテライトを有し600名余の維持透析患者を有する有床クリニックである。透析療法によるストレスから多様な精神症状を呈するとされており、当院の透析患者でも、しばしば通院透析困難が問題となっている。

【症例】60歳代・女性・事務職・夫が長年、当院で維持透析を行っている。

【入院までの経過】出産後、育児ノイローゼ発症し精神科通院歴あるが自己中断している。2年前より、症候性癲癇を発症し脳神経外科受診、同時期に腎機能悪化指摘された。本年、腎不全増悪によりシャント造設。その頃より抑鬱・パニック様症状が出現した。基幹病院精神科へ入院となり、貧困妄想鬱と診断された。会話乏しくコミュニケーション困難であり、行動困難や治療拒否がみられた。透析導入に伴い、家事に対する自信を失い帰宅困難となった。精神的に外来維持透析困難と判断され当院紹介された。

【当院入院後の経過】家事に対する自信喪失を取り戻すことを目標とした。うつ病の状態に関しては精神科外来への通院も継続してもらい精神科医の判断、助言も仰いだ。入院後、病棟での掃除および洗濯を徐々に行って貰い、入院、第15病日には自宅での生活への自信を取り戻したようにみえた。試験外泊を経て自宅での生活が可能と判断し第33病日、自宅退院となる。

【考察】今回、入院中に自宅での生活不安を具体的に傾聴し、不安を取り除く看護を中心に行った。具体的な不安感を取り除くことで自信となり、ADLの改善に繋がり認知行動療法となったと考えられる。

【結語】クリニックでは規則や決まりが少なく基幹病院では出来ない生活支援が出来る可能性があり認知行動療法に繋がり、うつ病の症状緩和に貢献する可能性がある。

# 一般演題

## 透析患者におけるリン吸着薬使用状況の調査

○松倉 泰世(マツクラ ヤスヨ)<sup>1)</sup>、塩入 陽子<sup>2)</sup>、森山 千鶴子<sup>3)</sup>、葉山 修陽<sup>4)</sup>、  
栗原 怜<sup>4)</sup>

1)医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 薬剤部、2)(株)ファーマみらい、

3)(株)エスシーグループ、4)医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 腎臓内科

**【背景】** カルシウム (Ca) 含有リン吸着薬は、リン吸着力には優れるが血管壁石灰化を助長する懸念が指摘され、Ca を含まない非 Ca 含有リン吸着薬の使用が推奨されている。近年、非 Ca 含有リン吸着薬の上市が相次ぎ、リン吸着薬の選択は多様化してきている。

**【目的】** 透析施設におけるリン吸着薬使用の現状を調査する。

**【方法】** 透析医療機関(総合病院2 有床透析クリニック1 無床透析クリニック2)に関連する薬局の薬剤師に依頼し、2014年3月3日～8日の期間の定時処方内容について調査した。

**【結果】** 総患者数は698名で男性が64%、平均年齢が64.7歳であった。このうちリン吸着薬投与ありが589人で全体の84.4%、109人(15.6%)は投与されていなかった。このうち単剤使用患者が50.9%、2種類以上の併用患者が49.1%であった。

最も多かったリン吸着薬は炭酸 Ca 製剤で全体の77.8%を占めていた。以下塩酸セベラマーの37.0%、炭酸ランタンの34.6%、ビキサロマーの8.0%であった。炭酸 Ca は1日量1,500～3,000mgの投与が多かったが、4,000mg以上の高用量投与例も18.1%に認められた。塩酸セベラマーは1日量500mg～9,000mgと投与量に大きな幅が認められた。炭酸ランタンは1日量750mg～1,500mgの投与が多かった。ビキサロマーは1日量1,500mgが多かった。

**【考察・結語】** 炭酸 Ca 製剤の投与頻度が予想以上に多かった。多くは添付文書上の1日3,000mgまでの推奨量が遵守されていたが、4,000mg以上の高用量投与例が少なからず存在した。各種非 Ca 含有リン吸着薬には、胃腸症状の副作用、必要錠剤数が多い、噛み砕きの必要性、カプセルサイズが大きい等のそれぞれ特徴があり、このことが使用頻度に影響を与えていると考えられた。さらに詳細に分析し報告する予定である。

5<sup>th</sup> Saitama Society  
For Dialysis Access

# Proceedings 2014

第5回埼玉アクセス研究会 Proceedings

---

## 第5回埼玉アクセス研究会 Proceedings

### 目 次

---

#### VAトラブルを予防する取り組み ～各施設の工夫から学ぼう～

---

バスキュラーアクセス(VA)に対するエコーガイド下穿刺の有用性

望星病院 原 正彦

穿刺・止血の工夫

(医)シャローム病院 小辻 聡 他

---

#### バスキュラーアクセス(VA)を再考する ～作製者と使用者の立場から～

---

バスキュラーアクセスを再考する

～作成者の立場から穿刺困難症例への対応～

友愛日進クリニック 四宮 敏彦 他

バスキュラーアクセスを再考する

～作成者の立場から穿刺困難症例への対応～

南町クリニック 中川 芳彦 他

バスキュラーアクセス(VA)を再考する

～使用者の立場から～

板倉クリニック 中田 貴史 他

バスキュラーアクセスを再考する

～使用者の立場から～

埼玉医科大学病院 小林 祐子 他

VAトラブルを予防する取組み ~各施設の工夫から学ぼう~

## バスキュラーアクセス(VA)に対する エコーガイド下穿刺の有用性

○原 正彦(ハラ マサヒコ)

望星病院 臨床工学技士 血管診療技師(CVT)

### 【はじめに】

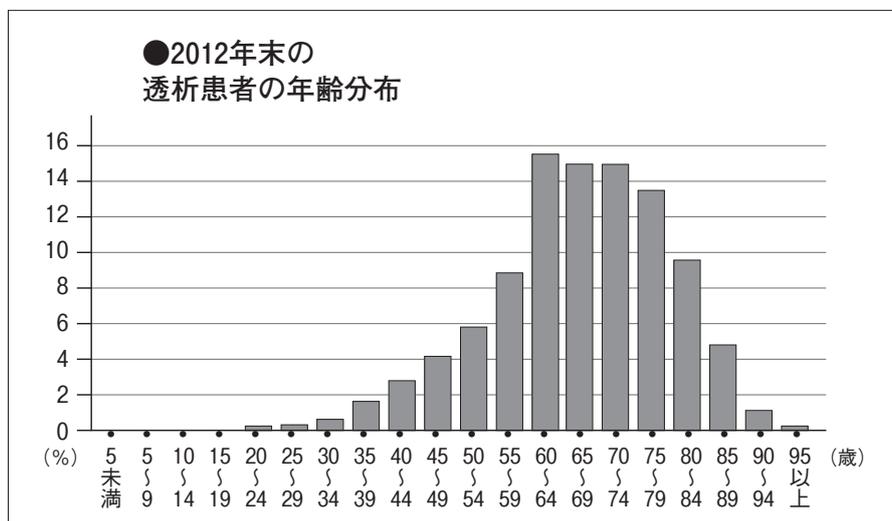
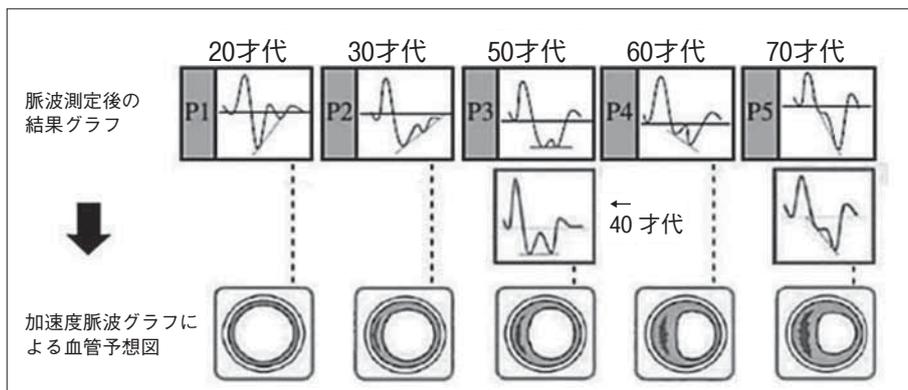
一般的な血管についてですが、同じ性別、同年齢の健康な方で、CAVIを用いて平均値を比べますと、年齢の重ねると共にCAVIの数値が上昇傾向を示すことが報告されています。カットオフとしては9.0以上で動脈硬化の進行が早いとされています。

加速度脈波では、末梢細動脈の血流動態を分析し

た結果、血管性弾性度などから、血管の内腔が推察されます。

このように、加齢と共に血管についても動脈硬化が進行しやすい状況が報告されています。

2012年度の透析患者による年齢の分布ですが、高齢化が進行しており、血管の確保することが困難な症例が多くなってきていると推測されます。



開 催 記 録

施 設 名 簿

会 則

索 引

## 学術集会開催記録

### 埼玉透析医学会

開催数(開催年月日)	大会長(開催時所属)	開催場所
29回(埼玉腎不全懇談会より改組)	古川 俊隆(丸山記念総合病院)	大 宮
30回(平成13年11月18日)	御手洗哲也(埼玉医科大学総合医療センター)	大 宮
31回(平成14年11月17日)	吉川 康行(東松山宏仁クリニック)	大 宮
32回(平成15年11月2日)	北岡 建樹(望星病院)	大 宮
33回(平成16年11月14日)	鈴木 洋通(埼玉医科大学)	大 宮
34回(平成17年11月20日)	田部井 薫(自治医科大学附属大宮医療センター)	大 宮
35回(平成18年12月3日)	中里 優一(埼玉社会保険病院)	大 宮
36回(平成19年11月25日)	栗原 怜(春日部内科クリニック)	大 宮
37回(平成20年12月7日)	松村 治(埼玉医科大学総合医療センター)	大 宮
38回(平成21年11月29日)	桑原 道雄(秀和総合病院)	大 宮
39回(平成22年11月28日)	菅原 壮一(岡病院)	大 宮
40回(平成23年12月4日)	熊谷 裕生(防衛医科大学校)	大 宮
	会 長(開催時所属) ※41回より大会長制を廃止	
41回(平成24年12月2日)	鈴木 洋通(埼玉医科大学)	大 宮
42回(平成25年12月1日)	鈴木 洋通(埼玉医科大学)	大 宮
43回(平成26年11月30日)	鈴木 洋通(埼玉医科大学)	大 宮

大宮=大宮ソニックシティ国際会議場

### 埼玉アクセス研究会

開催数(開催年月日)	開催場所
1回(平成22年7月18日)	大 宮
2回(平成23年6月5日)	大 宮
3回(平成24年7月29日)	大 宮
4回(平成25年7月21日)	大 宮
5回(平成26年8月24日)	大 宮

大宮=大宮ソニックシティ 国際会議場  
小ホール

## 埼玉透析医学会 会誌

---

発行日：2014年□月□日

発行：埼玉透析医学会

発行人：会長 鈴木 洋通

編集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL・FAX：042-984-0564

URL：<http://www.ssdt.jp/>

E-mail：[jinnai@saitama-med.ac.jp](mailto:jinnai@saitama-med.ac.jp)

編集責任者：塚本 功

編集委員：高根 裕史 小川 智也 金山 由紀 土屋 陽平

出版： 株式会社セカンド  
（株）セカンド  
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

---

定価：2,000円＋税